

上川管内



本道のほぼ中央に位置し、地形は南北に細長く、東西96.7km、南北224.4km、面積は10,619km²で、全道の12.7%を占めています。

四方が山に囲まれた内陸地帯の盆地になっているため、冬季には最低気温-41℃（明治35年）、夏季には最高気温38.5℃（令和3年）を記録するなど、寒暖の差が極めて大きい気候となっています。

旭岳を主峰とする大雪山系、北には天塩山系や北見山系、南には夕張山系と日高山系があり、そこから流れる大小様々な河川が、広大な沃野を形成しています。

また、管内には「大雪山国立公園」をはじめとした豊かな自然や観光資源にも恵まれ、道内外の皆さんに親しまれています。

「かみかわの概要2025」（上川総合振興局）より

障がい者の生涯学習支援活動【上川管内(旭川市・士別市)】

「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰 受賞団体の紹介(事例集から抜粋)

伴走サークル楽・RUN(士別市)

(令和4年度受賞)

長年にわたり、市内障がい者支援施設利用者(知的障がい者)を中心に、スポーツに親しむ機会の少ない障がい者を対象に、マラソン大会などで伴走活動を行っており、さらに、伴走者と被伴走者(施設利用者)の交流の機会を設け、支える側・支えられる側と位置づけずに、「喜びを共に分かち合う仲間」としての居場所づくりに努めています。



音訳グループ旭川本の会(旭川市)

(令和5年度受賞)

ボランティアとして、読書バリアフリーの推進を約40年前から実施しており、主に図書館を利用している視覚障害者に対し、対面音訳(朗読)や録音図書(デイジー図書(デジタル録音図書)や録音テープ)製作などの活動を行っています。



障がい者の生涯学習支援活動【上川管内(名寄市)】

障がいに対する理解を深める機会の提供

名寄市社会福祉協議会 (北海道家庭教育サポート企業)

障がいに対する理解を深めるため、「ふれあい広場なよろ」を開催しています。障がい者が活躍できる機会を増やすだけでなく、障がいの有無に関わらず、共に生きる社会の実現に向けて、みんなで何ができるのかを考えてもらう学習機会を提供しています。

その他、市内の学校に講師を派遣し、障がいについての理解を深めたり、自分たちにできることは何かを考えたりする学習の場を提供しています。



市内小学校での授業の様子



「ふれあい広場なよろ2025」の様子



「ふれあい広場なよろ2023」の様子

障がいに対する理解を深める機会の提供

KAMIFURANO GAMEDAY

上富良野町では、令和6年3月に策定した「第10次社会教育中期計画」において、障がい者の生涯学習推進を掲げています。そのことから、「障がい者の生涯学習」を考える機会をつくり、共生社会への理解を深めることを目的とした事業「KAMIFURANO GAMEDAY」を実施しました。

ボードゲームやレトロなコンピューターゲーム、e-Sportsなど、誰もが親しめる“ゲーム”を通して、参加者(多世代)の交流を図りつつ、講師を招いて「共生社会」について町内外の人々が学ぶ機会を提供しました。



講演「地域のなかで育むことも
～他者理解が物語る～」の様子



ゲームで遊ぶ参加者の様子



「モルック」などの体験コーナーの様子